

産業文化姉妹都市 徳島県徳島市

夏休みに徳島市を訪問し、伝統芸能の阿波おどりや藍染め、海水浴、シーカヤックなどを体験するほか、徳島市の小学生とホームステイ(2泊)で交流を深めます。



徳島市イメージアップキャラクター「トクシィ」



遠くを目指してシーカヤック

人口：約25万人
特産品：すだち、なると金時など

徳島県東部に位置する県庁所在地で、毎年夏に開催される「阿波おどり」には国内外から100万人以上が訪れる。

昭和52年に両市の観光協会が姉妹協会となったのが始まりで、昭和57年に帯広市の開基100年を記念して、産業文化姉妹都市を締結。



みんなで伝統芸能 阿波おどり



子ども親善訪問団員募集!

帯広市では、異なる文化や歴史に触れ、人と人のつながりを通じて、人づくりを進め、魅力ある地域づくりにつなげていくため、国内外6都市と姉妹・友好都市を提携しています。

毎年、帯広市の小学生が子ども親善訪問団として、姉妹都市の徳島市と松崎町を訪問しており、今年度の参加者を募集します。(表)



表 各都市の子ども親善訪問団の募集内容

訪問都市	日程	対象	定員	費用	申し込み
徳島市	7月25日(土)～28日(火)	・市内在住の小学4～6年生 ・12月26日～29日に徳島市から来帯する小学生との交流プログラムに参加可能な家庭(2泊のホームステイ受け入れ有り)	抽選6人程度	6万1000円程度	各小学校で配布される申込書を、4月24日(金)までに各校へ
松崎町	8月4日(火)～6日(木)	・市内在住の小学5・6年生 ・7月29日～31日に松崎町から来帯する小学生との交流プログラムに参加可能な家庭(5時間程度のミニホームステイ受け入れ有り)	抽選10人程度	4万円程度	

※上記の予定は変更になる可能性があります。

開拓姉妹都市 静岡県松崎町

夏休みに松崎町を訪問し、帯広開拓の祖・依田勉三翁の生家訪問、伝統文化の漆喰手法を取り入れた光る泥だんご作りや海水浴などを体験するほか、松崎町の小学生とミニホームステイ(5時間程度)で交流を深めます。



松崎町マスコット「まっちゃん」

人口：約6500人
特産品：桜葉、ボンカンなど

帯広開拓の祖・依田勉三翁の出身地で、伊豆半島の西南部に位置。

勉三翁ら開拓者の功績をたたえ、その開拓精神を学ぼうと、昭和53年に開拓姉妹都市を締結しました。



松崎町マスコット「まっちゃん」と記念撮影

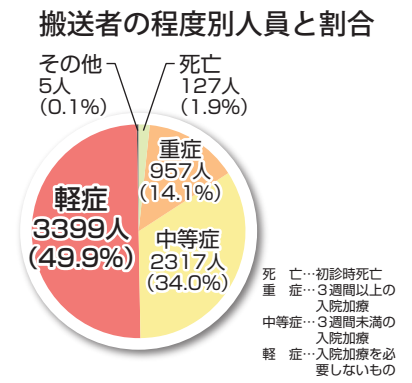


依田勉三翁にご挨拶

光る泥だんご作りに挑戦

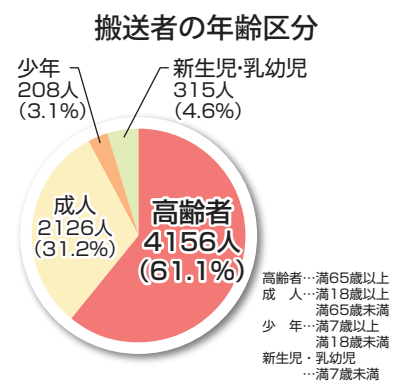
搬送者の約半数が「軽症」

傷病程度別でみると、約半数の人が入院を必要としない「軽症」です。救急車や救急医療には限りがあり、緊急性のない出動が増えると、救急隊による処置が必要な人への対応が遅れることがあります。



搬送者の6割以上は「高齢者」

平均寿命が延びる中で救急出動需要が増大しており、今後も出動件数の増加が予想されます。昨年中に搬送された傷病者を年齢区分別にみると、65歳以上の高齢者が全体の6割以上を占めています。



高齢者が傷病者とならないためのポイント

- 住宅内での転倒事故が多いため、より安全に暮らせる環境をつくり、事故を防ぎましょう。
- ・床の段差につまずかないよう気を付ける
 - ・通路などに物を置かないようにする
 - ・手すりや、階段・廊下などに滑り止めを設置する



こんなときは迷わず119番

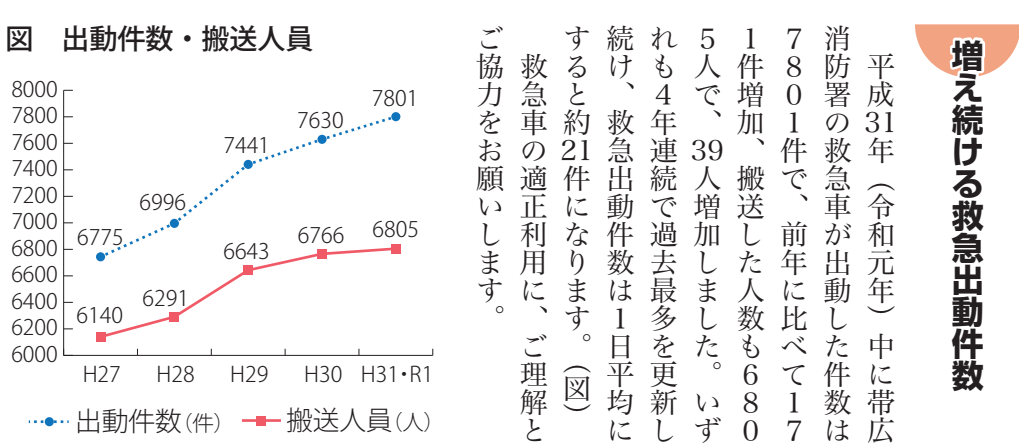
顔色が悪く呼吸が弱い、突然の激しい頭痛や胸痛を訴えているなどの状態は、生命に危険がある可能性があります。このような場合は、ためらわずに119番通報してください。

救急車の適正利用にご協力ください

平成31年(令和元年)中の救急出動状況

4年連続で救急出動件数が過去最多を更新し、搬送者の約半数が軽症者でした。救急車を呼ぶ際は、適正利用にご協力ください。

問い合わせ 帯広消防署救急課 (西6南6、消防庁舎1階、☎26・9132)



休日や夜間などの医療機関が知りたいときは

帯広市急病テレホンセンター
☎26・1099

北海道救急医療情報案内センター
☎0120・20・8699

携帯電話からは
☎011・221・8699

いざというときのため、救急講習に参加しませんか？

いざというときに、救急隊が到着するまで周りにいる人が応急手当ができるよう、毎月9日と19日の2回、定期救命講習を開催しています。

詳細は「帯広市からのお知らせ」(11頁)をご覧ください。なお、定期開催以外の講習を希望する場合は救急課へ問い合わせください。